

## 献 辞

学長 比 嘉 清 松

前田繁一先生は、平成9年3月、松山大学を定年により退職され、4月から関西福祉大学教授に就任されました。先生は、昭和51年4月松山商科大学経済学部助教授に就任されて以来、21年間にわたってご専門の政治学を中心に、憲法、演習を担当され、また、昭和63年4月開設されました本学法学部の初代法学部長として、設置にあたって中心的役割を果たされました。先生は、以下に見る通り、研究・教育上の業績はもとより、学内外で担われた数々の役職においても大きな足跡を印しておられます。松山大学は、前田先生が本学を退職されるに当たり、先生の本学に対する多大なご貢献に感謝の意を込めて、また、ご退職とご功績を記念して、ここに「前田繁一教授記念号」を捧げるものであります。

まず、先生の研究業績目録から窺えますように、昭和46年の「憲法中心の法学入門」に始まり、平成9年の「現代と政治過程」に至るまで、実に20冊におよぶ著書の他に、先生は多数の論文、社会評論、随筆をものされています。先生はご専門の政治学のご研究にとどまらず、幅広く精力的な執筆活動を続けて来られたのであります。とくに、注目すべきことは、政治過程のご研究を政治の現実にあてはめ、新聞等にその時々選挙の結果や地方政治問題についての健筆をふるわれたり、時にテレビに出演されて先生独特のあの歯切れの良い論評を加えられたりしたことでもあります。

先生が本学に赴任されましたのは、上記の通り、昭和51年でありますから、同世代の先生に比べて必ずしも早いとは申せませんが、しかし、21年におよぶ先生の軌跡をたどりますと、その足跡の大きさ、密度の濃さには瞠目すべきも

のがあります。先生が本学で主として担当された政治学概論は大学の看板科目として多くの学生を引き付けてきましたし、また、前田ゼミは人気ゼミとして多くの優秀な学生を集め、その中から優れたゼミ卒業生を輩出しているのであります。

このように先生の回りに多くの優れたゼミ生が集まってきたのは、研究者として、また、教育者としての先生の魅力はもとよりであります。青年のような先生の若々しさにあるように思われます。随筆集「青春彷徨」や「流転」は先生の青春そのものであるように感じられます。昭和ひとけた生まれの先生の世代は戦後の「焼け跡派」として、学制が旧制から新制への移行期にあたり、先生より少しばかり若輩のものから見ますと、先生は姿勢がよく颯爽とした旧制高校生の雰囲気漂わせ、通るような素晴らしいお声、あくまでも万年青年のようなカッコウイーお姿に憧憬の念を禁じえないのであります。

冒頭に申し上げましたように、先生は、学内にあっては、2期に亘る初代法学部長として創設時の法学部の基礎固めに当たられたのを始めとして、学生委員長、教職委員長、図書館長と数々の役職に就かれ、また学外にあっては、学会関係として日本政治学会理事や中四国法政学会理事、松山市制百周年事業懇談会会長や情報公開懇談会会長を始めとする松山市の各種委員会委員長・会長を歴任され、その面での功績も顕著であります。

松山大学の再雇用規程では、通例、定年後も雇用の延長が認められますので、これにしたがって、引き続き再雇用されるものと思っていただけに、このたび、辞退され、退職されますことは大学にとっても大きな損失であり、また、公私にわたってご指導を賜ってきたものにとり惜しみても余りある事でありませぬ。しかし、先生は請われて関西福祉大学の設置要員として新天地でのご活躍が大いに期待されますので、この意味からは先生の新たな門出に祝意を表さなければなりません。先生はご退職後も相変わらず若々しく、万年青年振りを発揮しておられます。先生がこれからも末ながくご健勝でご活躍されますことをお祈りして献辞と致します。